

働く人々の職業観に迫る

○意図的な小単元の配列

以下のような小単元を計画し、多様な立場や状況に置かれた働く人々と出会う場を設定し、自分の職業観について、多様な視点から見つめ直すことができるようにした。

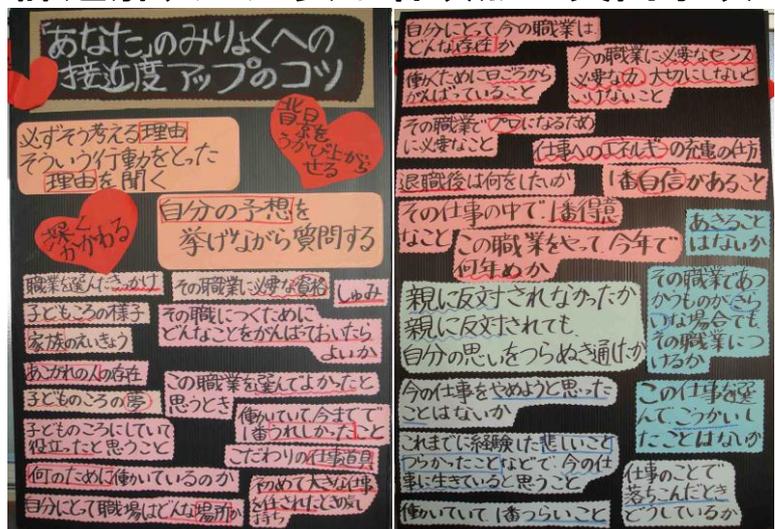
	小単元名	かかわる人々	出合いを設定した意図
小単元Ⅰ	人を育てる職業に携わる人々の職業観に迫る	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教師（学級担任） ・小学校校長（管理職） 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにとって、身近な存在なので、繰り返しかかわる中で、インタビューのコツについて見いださせることができると考えた。 ・同じ職業をもつ人々に共通する職業観と、その人ならではの職業観を見いださせることができると考えた。 ・立場の違いによる職業観の違いについて見い出させることができると考えた。
小単元Ⅱ	競艇選手の職業観に迫る	<ul style="list-style-type: none"> ・競艇選手（本校の卒業生） 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生のときに抱いた夢を実現させた方なので、今と将来の自分とのつながりを意識させたり、今すべきことに目を向けさせたりできると考えた。 ・困難に出会い、一度はその職から離れていたが、家族の支えがあって復帰された方なので、働く人々を支える思いや願い、見方・考え方、存在に目を向けてさせていくことができると考えた。
小単元Ⅲ	食に携わる人々の職業観に迫る	<ul style="list-style-type: none"> ・食育シスターズ（本校栄養士）（本校調理員） ・料理人（本校の卒業生） 	<ul style="list-style-type: none"> ・食を提供する対象の違いによる職業観の相違点や食に携わる人々に共通する職業観について見いださせることができると考えた。 ・料理人の方は、子どもの頃、辛い状況にあるときに、ある出合いによって、前に向かって人生を切り拓くことができたという経験をされているので、前向きに生きるために必要な存在や、夢を実現させるために必要な手立てについて目を向けさせていくことができると考えた。
小単元Ⅳ	家族や自分が気になる職業に携わる人々の職業観に迫る	<ul style="list-style-type: none"> ・家族 ・気になる職業に携わる人々 	<ul style="list-style-type: none"> ・小単元Ⅲまでは、教師が選んだゲストティーチャーにインタビューをさせたが、小単元Ⅳでは、自分でインタビューする対象を選ばせた。そして、これまで追求して得た視点や方法を活用して、職業観に迫らせていくことができると考えた。

○課題解決に必要な着眼点や質問事項などの蓄積

仲間とともに、小単元Ⅰの追求の中で見いだした働く人々の職業観に迫るために有効な質問事項や着眼点を、『『あなた』の魅力への接近度アップのコツ』として、適宜蓄積させた。これらの質問事項や着眼点を、プラス感情にかかわることはピンク、マイナス感情にかかわることは水色の色画用紙に記述して掲示し、視覚的に質の違いを把握できるようにした。

このボードに蓄積した質問事項や着眼点は、それ以降の小単元の追求において、仲間でも活用させた。

課題解決に必要な着眼点や質問事項



働く人々の職業観に迫って得た見方・考え方、生まれた思いや願いを自己の生き方につなぐ

○自分の今後に生きる「マイキャリアナビブック」の作成

働く人々の職業観に迫ることで得た見方・考え方、生まれた思いや願いなどを、今や今後の自分が在り方に生かすことができるように、以下のことを「マイキャリアナビブック」にまとめさせた。

- | | |
|------------------|---------------------|
| ◇心に残った調査した人の言葉 | ◇今の自分を支える存在 |
| ◇自分が働く上で大切にしたいこと | ◇自分が働く際に支えられるであろう存在 |

○自分が将来在りたい姿にたどり着くまでの多様な道のりのイメージ化

単元のまとめには、追求して得た職業に対する見方・考え方をもとに、自分が将来在りたいと考える姿にたどり着くまでの経路を多様にイメージすることができたかどうか見取るために、右のワークシートを活用した。そして、なぜ、そのような道のりをイメージしたのかを文章化させた。



私は、「職業とは、ズバリ！仲間に支えられながら夢を叶えるものである」と最終的には考える。

私は、将来保育士になろうと考えている。◇さんは、どんな困難に出会っても、一度その職業から離れても、もう一度自分の小学校の時の夢を叶えようとしていた。だから、私は、「保育士になって子どもたちと遊んでいる」という自分が一番輝いている姿にたどり着くまでの道のりは1つではないと考え、色々な道のりをイメージしてみた。壁にぶつかった時にどうするかも、考えてみた。

また、○先生や同学年の先生方の関係を調査する中で、働く場所での仲間の存在は、頑張り続けるためにとても大きなエネルギーを与えることも学んだ。だから、「つらいことや苦しいことがあっても仲間と助け合う」と書いた。

でも、いつも走り続けると心が疲れてしまうので、たまには癒される時間も確保して、何年か後の退職まで仕事を頑張りたい。そして、残りの人生も楽しみたいと考える。



考察・課題

多様な立場や状況に置かれた働く人々との出会いの場を設定したので、子どもたちは、職業に対する多様な見方・考え方を得ることができた。そして、得た見方・考え方をもとに、自分の今後の在り方を見つめ、自分の支えとなる思いや願い、考え、存在などについても自覚できた。

課題は、毎年招聘できるゲストティチャーばかりではないので、新年度を迎えた時点で、ゲストティチャーを選び直さないといけない場合があることである。

全体計画との関連

○本校のキャリア教育によって育む児童像

自分のよさに気付き、意欲をもって取り組み、夢や希望を実現しようとする子ども

○高学年の重点目標と本単元のねらいとの関連

キャリア領域・能力	高学年の重点目標（本単元に関連する重点目標を抜粋）
人間関係形成能力	・自分の長所や欠点に気付き、自分らしさを発揮する。
情報活用能力	・学んだり体験したりしたことと、生活や職業の関連を考える。
将来設計能力	・社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。 ・将来のことを考える大切さが分かる。
意思決定能力	・将来の夢や希望をもち、実現を目指して努力しようとする。